

## 1. 日 時

平成三十年十二月二十日（木）第五時限 一時十五分～二時五分

## 2. 場 所

第一学年二組教室

## 3. 学年・組・教科（科目）

第一学年二組（三十九名）・国語総合（古典分野）

## 4. 単元（題材）名

六、和歌 古今和歌集 三省堂『国語総合 古典編 [改訂版]』

## 5. 単元（題材）の目標

平安歌人が、心情や情景などをどのように和歌に詠みあらわしているのかを捉え、伝統的な日本語の持つ美しさや深さに気づく。（d. 読む能力）

## 6. 教材観

『古今和歌集』は『万葉集』以来の和歌の伝統、平仮名の普及、漢詩文の知識・美意識の摂取、摂関政治における宮廷社会の社交的な雰囲気・教養主義などといった要素が絡み合い、古今的歌風が醸し出されて成立した我が国初の勅撰和歌集である。優美かつ繊細な歌風は、素朴で率直な万葉集の「ますらをぶり」に対し、「たをやめぶり」と評され、整然とした配列部立は、その後の和歌集の編纂の規範となっている。特に、四季の歌や恋の歌などに見られるように、時の推移に注目した詠みぶりであることや、景物のどんな点に注目して詠んでいるかに気づかせることで、生徒たちのものの見方や感じ方などへの理解が深まることと考えられる。

## 7. 生徒観

理工系、医歯薬系の四年制（主として国公立）大学進学を志向する生徒の多い理系クラスである。古典の授業への各自の取り組みはたいへん真面目であり、ペアワークやグループワークなどにも協調性をもって積極的に取り組むことができる。外部模試の成績は文系クラス以上に良好といえるが、これは必ずしも日々の予習復習などの学習習慣に根ざした結果ではないようである。国語の家庭学習をほとんどしないという生徒が七割を超え、古文単語の小テストや宿題などは、授業の直前に取り組むだけのものも多い。古典を勉強する際の意識が文法や句法に偏りがちなのもこのクラスの特徴といえる。

## 8. 指導観（本時のもの）

文法・語句の意味といった基礎知識を応用し、五首の和歌の状況を一首ずつグループに分かれ具体的に現代語に置き換え、どんな状況を詠んだ和歌であるかを考える。個人の考えをグループでつぎあわせ、対話を通じてより深みのあるものにする。

前半のグループを解体し、前半で違う和歌を担当した生徒同士で後半のグループを作る。そこでは前半での取り組みを自分が責任を持ってそれぞれの和歌の状況を他者に説明をする。そのため、受け持つ

た和歌で歌われた状況を理解してもらうための主体的に説明を工夫する必要がある。

五首の和歌の状況を説明し終わった後「恋の展開」の配列を確定していく。ここでは単独の歌の解釈の理解にとどまらず、複数の和歌の比較を通して関係性について考え理解し共有が必要である。

和歌の表現から読み取れる状況を抽象化し相互比較をして関係性を理解し、根拠の正確性に配慮しながら配列を決定すること、さらに古今和歌集における本来の配列と自分たちが考えた配列とを比較し、相違点に気付くことで古今集編者と自分たちとの価値観の違いに対して理解を深めていく。

## 9. 単元（題材）の評価の計画

観点	d. 読む能力
単元の目標 (再掲)	平安歌人が、心情や情景などをどのように和歌に詠みあらわしているのかを捉え、伝統的な日本語の持つ美しさや深さに気づく。
具体的な 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌の詠まれた状況や場などを、詞書にも注目し、考えようとしている。</li> <li>文法事項を確認しながら、和歌に描かれた情景や作者の心情を考えようとしている。</li> <li>文法事項を確認しながら、和歌の詠まれた歴史的背景や当時の人々のものの見方や考え方などを積極的に考えようとしている。</li> </ul>
評価方法	行動の観察、ワークシートの点検

## 10. 本時の展開

### (1) 本時の活動案

- 古今和歌集十一巻～十五巻（恋歌一～五）の各巻からそれぞれ1首ずつ選んだうちの一つの和歌について、文法や語句に注目して鑑賞し、どのような状況で読まれたのかを推測する。（グループ活動①）
- 五首の和歌の意味や、和歌が詠まれた状況をグループ内で共有し、恋愛の展開に沿って並べ替える。その際、現代短歌も一つ混ぜることでより活発な話し合いを促す（グループ活動②）
- 『古今和歌集』における実際の記載順序を知り、現代の恋愛観と平安歌人たちの詠んだ恋愛観との違いについて考える。（個人活動①）

### (2) 本時の準備物

- 古今和歌集十一巻～十五巻（恋歌一～五）の各巻から一つずつ選んだ和歌・・・ワークシート①
- 上記五首をまとめたワークシート・・・ワークシート②
- 国語便覧×4、古文単語330（持ってくるよう予め指示。予備として1準備。）
- ストップウォッチ

### (3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5分 導入	①古今和歌集の選者を確認する。 ②古今和歌集は選者が工夫を凝らして約千百首の和歌を配列していることを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紀貫之」の名が出るように既習の『土佐日記』などのキーワードを与える。</li> <li>教科書を参考に四季の歌の春→夏→秋→冬の配列を確認したうえで、恋歌が一～五巻あり、何らかの配列の意図があることを示唆する。</li> </ul>	古今和歌集の配列に、明確な選者の意図があることに気づいているか。 (行動の観察)

<p>40分 展開</p>	<p>③グループ活動1 4人1組のグループに分け、A～Eの和歌のうち一つの和歌の状況を確認する。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>恋愛のどんな局面を詠んでいると思いますか？</p> </div> <p>④グループ活動2 ・③のグループを解体し、別の和歌を担当した生徒同士で新グループを作る。(3分) ・自分が③で担当した和歌の状況を他者に説明をする(1分×5人=5分) ・「和歌の配列」に挑戦する。(12分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あなたたちが紀貫之の仲間なら、どんな配列を提案しますか？</p> </div> <p>⑤グループごとに配列を発表する。(10分)</p>	<p>●現代語訳に時間をとられすぎないように、ヒント(例：国語便覧の百人一首のページに注目!)を与えておく。 ●恋愛のどんな局面を詠んでいるかストーリーを想像・創造するよう促す。 A有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし B今来むと言ひしばかりに長月の有明の月をまちいでつるかな C思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを D月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして E見ずもあらず見もせぬ人の恋しくはあやなく今日や眺めくらさむ</p> <p>●時間をかけすぎないように、和歌が詠まれた状況・恋愛の局面に主眼をおいて説明するように指示する。 ●配列がアイウエオ順や、和歌が詠まれた時代順などに流れないように、恋愛の展開に沿って考えてみるようにヒントを与える。 ●三～五分後に俵万智氏の俵：「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日を投入し、A～Eに加えて配列を考えるように指示する。 ●異なる配列をしたグループに着目し、配列の意図を聞く</p>	<p>口語訳や詞書を参考に、和歌に詠まれた状況を理解しているか。 (行動・記述の確認)</p> <p>それぞれの和歌を比較対照し、現代の恋愛観も踏まえたうえで、論理的な配列が行えているか。 (行動、記述の確認)</p>
<p>5分 まとめ</p>	<p>⑥古今和歌集における配列を発表し、それぞれの和歌が詠まれた状況を振り返る。 ⑦リフレクションシートを記入する。</p>	<p>●Aの和歌は、古今和歌集内で前後の和歌の配列から「恋人の家を訪ねていったが、朝まで入れてもらえずに帰った」状況を詠んだ歌であることが分かったと紹介する。 ●それぞれの巻の中でも、巧みな配列が行われていることを確認する。</p>	

### 「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
【d】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書や文法書などを適宜もちいて、和歌の意味を精確に読み取っている。</li> <li>・現代の恋愛観と比較対照しながら、和歌に詠まれた情景や心情を読み取っている。</li> <li>・平安貴族の恋愛観について、自分なりの解釈をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識をもとに、和歌の意味を概ね読み取っている。</li> <li>・和歌に描かれた情景を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注目すべき語句などを示す。</li> <li>・既習の作品内で扱われていた和歌との比較を促す。</li> <li>・現代の恋愛との比較を促す。</li> </ul>